

令和5年度「北区基礎・基本の定着度調査」を受けての各教科の分析	
国語	全体的に目標値を上回っているが、3年は全ての領域において全国平均を下回っている。特に「言葉の特徴や使い方に関する事項」「基礎」「知識・技能」に関するカテゴリにおいて低い傾向がある。「読むこと」や「書くこと」の領域も低いため、言語活動を充実させる必要があると考えられる。読書経験を増やす活動やNIEなど多様な文章に触れる機会を設ける。
社会	全てのカテゴリにおいて全国と区の平均値を上回っている。6年は「知識・技能」「国土の自然などの様子」「産業と情報との関わり」において平均値より高い傾向があり、5年は「知識・技能」と「基礎」において平均値より高い傾向がある。このため、基礎的な事項の定着が見られるため、今後の課題として思考力・判断力・表現力を高める工夫が必要であると考えられる。
算数	全体的に標準スコアを超えている。特に6年は「活用」のカテゴリにおいて目標値より20%近く高い値になった。「基礎」を定着させた上に「思考・判断・表現」を活用し、学力を高めていると考えられる。2年は「データの活用」、3年は「活用」及び「図形」「思考・判断・表現」、4年は「データの活用」において目標値と同等か下回る傾向が見られた。学習用PCを活用し、思考力・判断力・表現力を高める活動の工夫が必要
理科	全体的に標準値と同等かそれを上回っている。4年は「生命・地球」のカテゴリが最も値が高く、総合的な学習の時間との関わりで「思考・判断・表現」を高めた結果であると考えられる。5年は「知識・技能」観点において目標値を下回り、そのため全体的に標準スコアと同等の結果となっている。6年は「基礎」の値が高く、「思考・判断・表現」を高めるためには基礎的な事柄を定着させることが重要であると考えられる。

本校の教育目標
◎たゆまず学び、工夫する子 ○きまりを守り、協力する子 ○にこやかに、心も体も元気な子
(◎:重点目標)

本校が児童に育成したい力
<ul style="list-style-type: none"> ・人権意識や相手を尊重する態度 回復する力 ・社会に貢献する意欲 ・問題を発見・解決し新たな価値を創造する力 ・規範意識と社会性 ・基礎的・基本的な学力 ・多様な人と協働しグローバル社会で活躍する力 ・感動する心と表現する力

学力向上にかかわる経営方針
<ul style="list-style-type: none"> ・「知識基盤社会」における自立に向けて必要となる学力を育成する ・体験的な学習を通じた健やかな体づくりと自らの安全を守る力を育成する ・学びの環境の充実と子どもと家庭へのきめ細やかな支援を充実する

校内における学力向上推進体制
研究推進委員会、学力パワーアップ講師の活用等で、児童の学力向上に関して学年担任と連携を図り、組織的に児童の学力向上を図る。各種調査結果を分析し、「個人カルテ」による個別支援とICT活用等の授業改善を行う。

本校の授業改善に向けた視点				
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を図り、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着や思考力、判断力、表現力、問題解決能力、読書力等を育成し、確かな学力を定着させる。算数科での習熟度別少人数指導を通して個に応じた指導の充実を図る。	4年生の国語科、5・6年生の外国語科において、短時間学習を行い、授業時数の確保、学力の向上を目指す。中高学年では年間30回、放課後に学力フォローアップの時間を設け、国語や算数の基礎基本の定着を図る。	総合的な学習の時間において、自分の考えをもち、豊かに表現する子の育成を図る。探求的な見方・考え方を働かせ、目的や根拠を明らかにしながら課題を解決し、自己の生き方を考えることができるようにする。	評価規準を活用した形成的評価を指導に生かし、指導と評価の一体化を図る。指導評価委員会で、年2回、通知表について見直しを図る。また外部評価や内部評価を積極的に活用し、授業改善に生かす。	絆づくりと活力ある学校地域コミュニティを創造する。学校のホームページ、正面掲示板、地域掲示板の活用などを進め学校広報活動を充実する。地域人材の参画やPTAの協力による学習環境作りや学習・授業を実施する。